

ガソリン携行缶の取扱い方法を誤ると大変危険です！！

ガソリンの性質

ガソリンは気温が - 40 度でも気化し小さな火源でも引火して爆発的に燃焼します。

揮発性が高く可燃性蒸気は空気より重い。

漏れやこぼれた際に広範囲に拡大して火花や静電気、離れた場所の火気等で容易に火災に至る危険性があります。



ガソリンを注油する際の注意事項

発電機の稼働中や、火気の近くでの注油は絶対ダメ！

ガソリン携行缶は開口前に圧力調整弁を操作して吹きこぼしが起こらないよう細心の注意をすること。

(特に夏季は注意すること)



機器及び携行缶の取扱説明書をよく読み適正な取扱いをしてください。

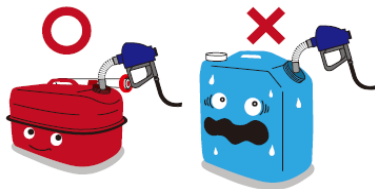
金属製容器等の保管と注意事項

灯油用ポリ容器でのガソリンの保管は禁止されています。

消防法令に適合した金属製容器等で保管・取扱いをしてください。

火気や高温部（排気）の近くは避け、直射日光の当たらない通気性の良い場所を選び、大勢の人の集まる場所での保管は避けてください。

静電気の火花で火災になることがあるため、金属製容器を地盤面に直接置いて静電気の蓄積を防いでください。



ガソリンの貯蔵に適した容器の例



推奨品

性能試験をクリアした表示



ポリエチレン容器は特に帯電性が高いため静電気火災の危険性があります。

万一の火災に備えて消火器を準備しましょう。

